

図 3-a 部位別にみたときの健康食品素材が関連した有害事例 (報告件数で分類)
 (詳細は表 1-a ならびに調査方法の項目を参照)

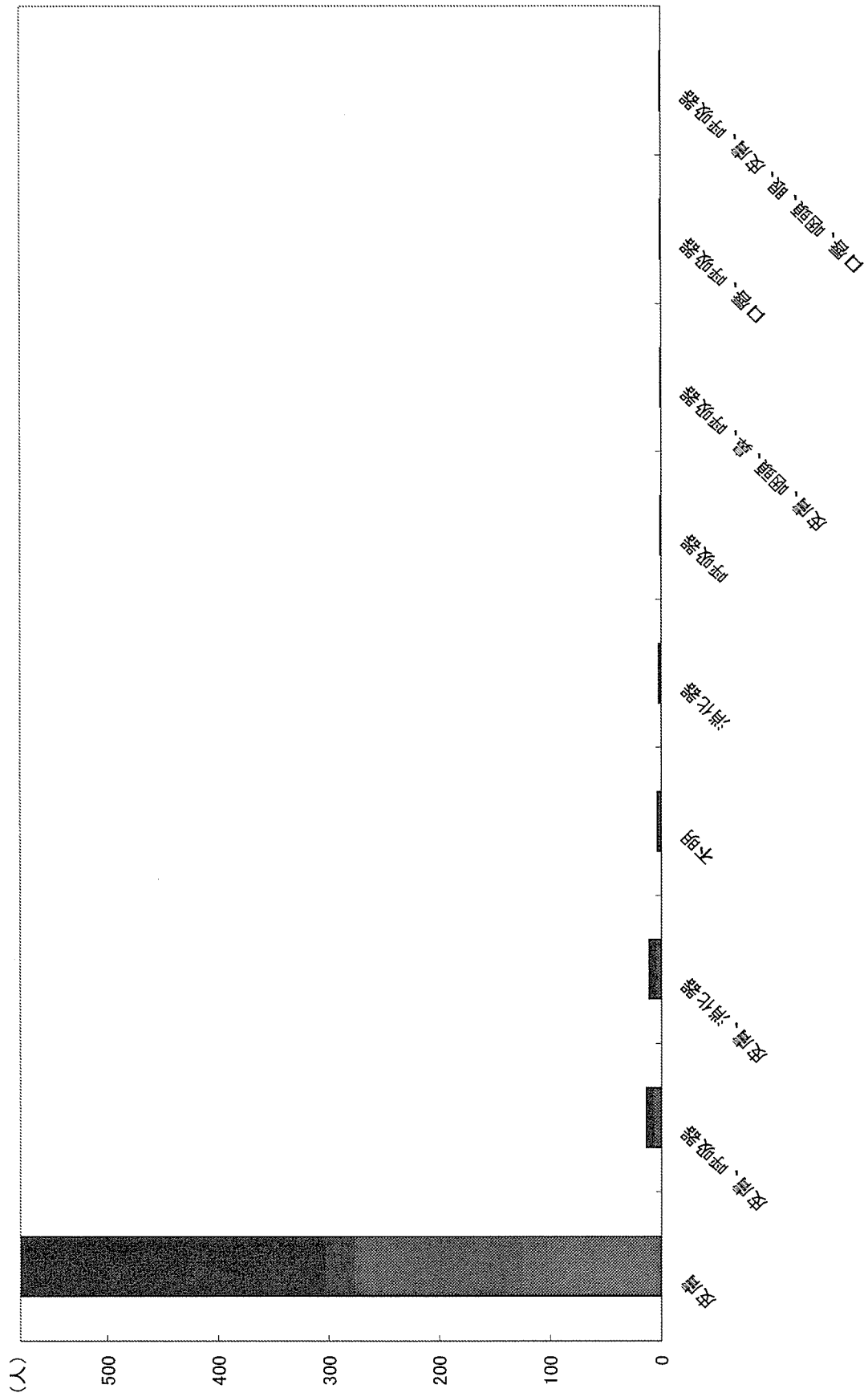


図 3-b 部位別にみたときの健康食品素材が関連した有害事例 (被害者の人数で分類)
 (詳細は表 1-a ならびに調査方法の項目を参照)

表 4-a 症状の程度別にみたときの健康食品素材が関連した有害事例
 (報告件数で分類)
 (詳細は表 1-a ならびに調査方法の項目を参照)

	軽症(件)	重症(件)	死亡(件)
アレルギー	81 (94.2%)	5 (5.8%)	0 (0%)
肝臓障害	9 (47.4%)	9 (47.4%)	1 (5.3%)
呼吸器障害	5 (38.5%)	7 (53.8%)	1 (7.7%)
胃腸障害	3 (33.3%)	6 (66.7%)	0 (0%)
腎臓障害	4 (57.1%)	2 (28.6%)	1 (14.3%)
甲状腺機能低下症	5 (83.3%)	1 (16.7%)	0 (0%)
柑皮症	4 (100%)	0 (0%)	0 (0%)
好酸球増加・筋肉痛症候群	2 (66.7%)	1 (33.3%)	0 (0%)
腫瘍	0 (0%)	2 (100%)	0 (0%)
光過敏症	2 (100%)	0 (0%)	0 (0%)
アミロイドーシス	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)
医薬品の相互作用	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)
横紋筋融解症	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)
関節障害	1 (100%)	0 (0%)	0 (0%)
出生時の奇形	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)
消化管潰瘍	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)
高カルシウム血症	0 (0%)	0 (0%)	1 (100%)

全報告数 158 件

表 4-b 症状の程度別にみたときの健康食品素材が関連した有害事例
 (被害者の人数で分類)
 (詳細は表 1-a ならびに調査方法の項目を参照)

	軽症(人)	重症(人)	死亡(人)
アレルギー	605 (98.7%)	8 (1.3%)	0 (0%)
甲状腺機能低下症	70 (98.6%)	1 (1.4%)	0 (0%)
関節障害	64 (100%)	0 (0%)	0 (0%)
肝臓障害	20 (40.8%)	28 (57.1%)	1 (2.0%)
胃腸障害	17 (30.4%)	39 (69.6%)	0 (0%)
光過敏症	17 (100%)	0 (0%)	0 (0%)
腎臓障害	16 (84.2%)	2 (10.5%)	1 (5.3%)
呼吸器障害	12 (60.0%)	7 (35.0%)	1 (5.0%)
柑皮症	6 (100%)	0 (0%)	0 (0%)
好酸球増加・筋肉痛症候群	3 (50.0%)	3 (50.0%)	0 (0%)
腫瘍	0 (0%)	2 (100%)	0 (0%)
アミロイドーシス	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)
横紋筋融解症	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)
出生児の奇形	0 (0%)	2 (100%)	0 (0%)
消化管潰瘍	0 (0%)	1 (100%)	0 (0%)
高カルシウム血症	0 (0%)	0 (0%)	12 (100%)
医薬品の相互作用	0 (0%)	2 (100%)	0 (0%)

全被害者数 942 名

表 5-a アレルギー症状の 86 報告に関与した健康素材(報告件数で分類)
(詳細は表 1-a ならびに調査方法の項目を参照)

素材名	件数	素材名	件数
プロポリス	14(16.3%)	タイム	1(1.2%)
シイタケ	10(11.6%)	カミツレ	1(1.2%)
ビタミン B1	5(5.8%)	クズ	1(1.2%)
ウコン	4(4.7%)	ローズマリー	1(1.2%)
ニンニク	4(4.7%)	グルタチオン	1(1.2%)
ビタミン B6	4(4.7%)	クレアチン	1(1.2%)
ゼラチン	3(3.5%)	システイン	1(1.2%)
アロエ	3(3.5%)	ヒスチジン	1(1.2%)
キダチアロエ	3(3.5%)	ヨウ素	1(1.2%)
クロレラ	3(3.5%)	珪素	1(1.2%)
オウギ	2(2.3%)	DHA	1(1.2%)
ビワ	2(2.3%)	ガラクトオリゴ糖	1(1.2%)
ケイヒ	2(2.3%)	キトサン	1(1.2%)
アガリクス	2(2.3%)	コラーゲン	1(1.2%)
ウメ	2(2.3%)	スピルリナ	1(1.2%)
ダイズ	2(2.3%)	ナットウ	1(1.2%)
タマネギ	2(2.3%)	ギンナン	1(1.2%)
オオムギ	1(1.2%)	マツタケ	1(1.2%)

アレルギー症状の報告総数 86 件

全報告数 158 件

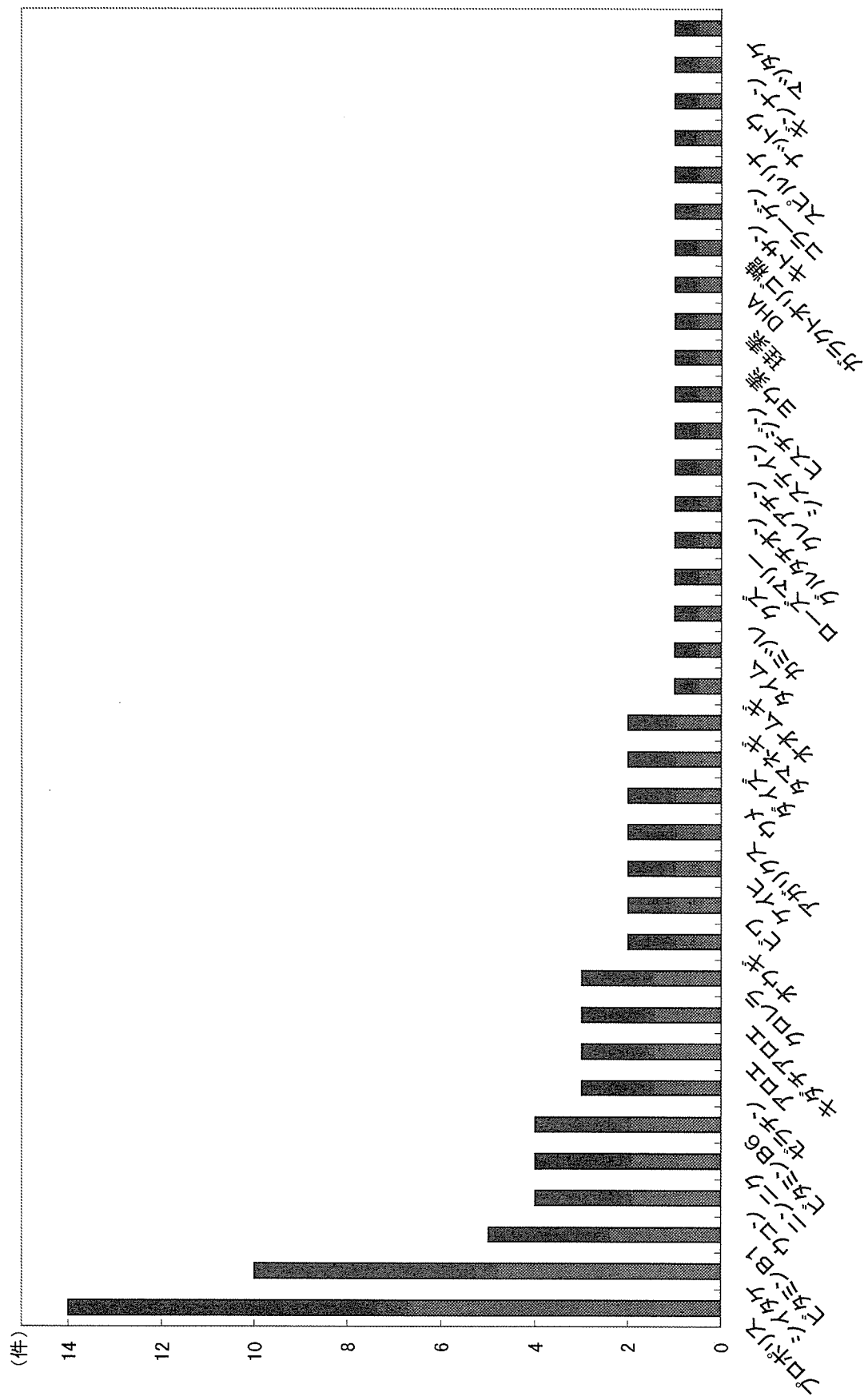


図 4-a アレルギー症状の 86 報告に関連した健康素材 (報告件数で分類)
 (詳細は表 1-a ならびに調査方法の項目を参照)

表 5-b アレルギー症状の 86 報告に関与した健康素材(被害者の人数で分類)
(詳細は表 1-a ならびに調査方法の項目を参照)

素材名	人数	素材名	人数
シイタケ	218(35.6%)	アガリクス	3(0.5%)
コラーゲン	187(30.5%)	ビタミン B6	3(0.5%)
オオムギ	58(9.5%)	ビワ	3(0.5%)
プロポリス	27(2.8%)	ウメ	2(0.3%)
アロエ	17(2.8%)	キトサン	2(0.3%)
ニンニク	14(2.3%)	ダイズ	2(0.3%)
ガラクトオリゴ糖	12(2.0%)	タイム	2(0.3%)
ヒスチジン	10(1.6%)	カミツレ	1(0.2%)
キダチアロエ	6(1.0%)	グルタチオン	1(0.2%)
ゼラチン	6(1.0%)	クレアチン	1(0.2%)
タマネギ	6(1.0%)	珪素	1(0.2%)
オウギ	5(0.8%)	システイン	1(0.2%)
ケイヒ	5(0.8%)	スピルリナ	1(0.2%)
ウコン	4(0.7%)	ナットウ	1(0.2%)
クロレラ	4(0.7%)	マツタケ	1(0.2%)
ビタミン B1	4(0.7%)	ヨウ素	1(0.2%)
DHA	3(0.5%)	ローズマリー	1(0.2%)

アレルギー症状を発症した被害者総数 613 名
全被害者数 942 名

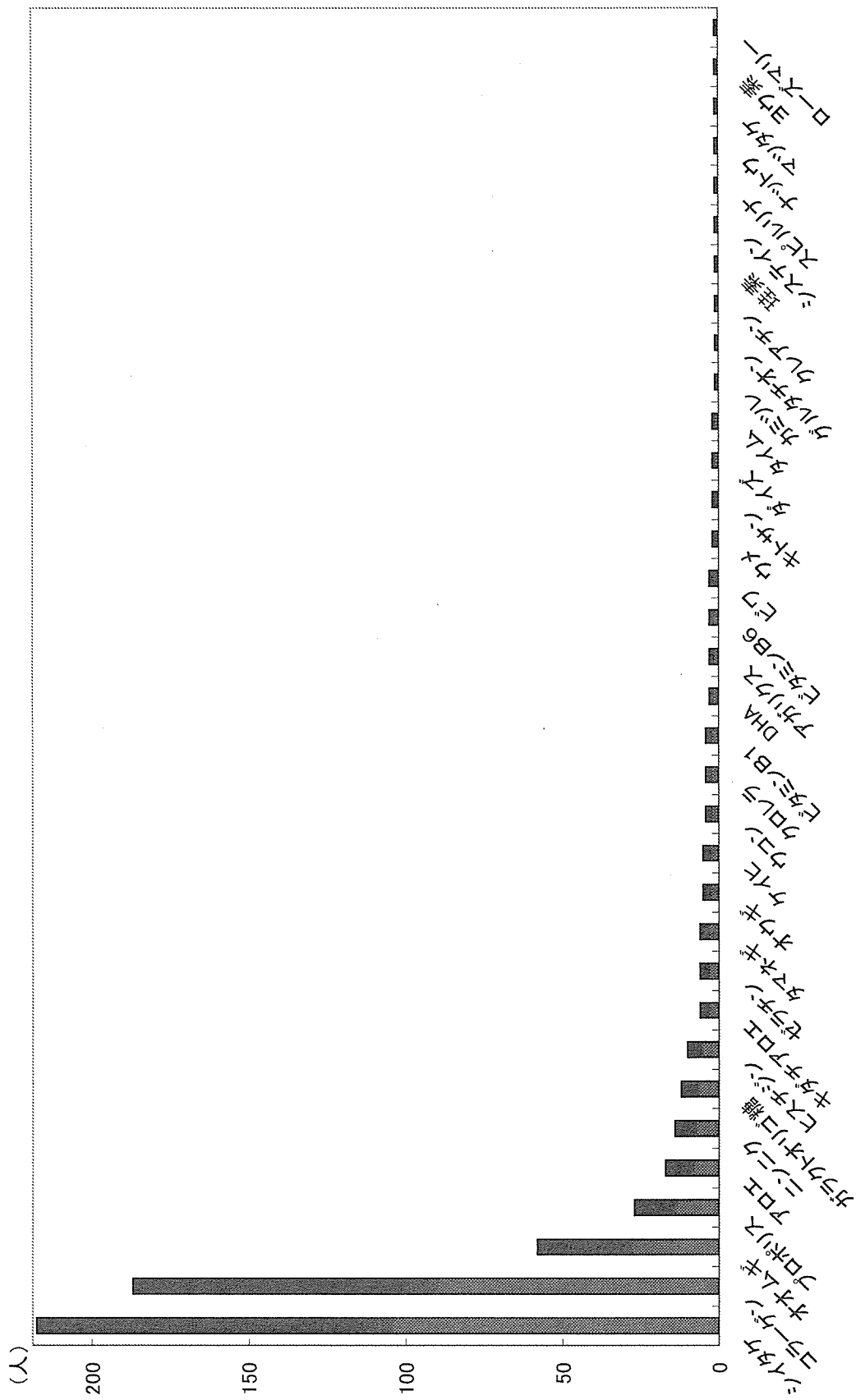


図 4-b アレルギー症状の 86 報告に關与した健康素材 (被害者の人数で分類)
 (詳細は表 1-a ならびに調査方法の項目を参照)

表 6-a 肝障害の 19 報告に関与した健康食品素材(報告件数で分類)
(詳細は表 1-a ならびに調査方法の項目を参照)

素材名	件数
アガリクス	3(15.8%)
ウコン	3(15.8%)
クロレラ	3(15.8%)
鉄	3(15.8%)
キャッツクロー	1(5.3%)
クズ	1(5.3%)
キダチアロエ	1(5.3%)
ビタミン B1	1(5.3%)
ビタミン B6	1(5.3%)
プロポリス	1(5.3%)
メリロート	1(5.3%)

肝障害の報告総数 19 件
全報告 158 件

表 6-b 肝障害の 19 報告に関与した健康食品素材(被害者の人数で分類)
(詳細は表 1-a ならびに調査方法の項目を参照)

素材名	人数
鉄	21(42.9%)
ウコン	13(26.5%)
アガリクス	3(6.1%)
クロレラ	3(6.1%)
クズ	2(4.1%)
プロポリス	2(4.1%)
キダチアロエ	1(2.0%)
キャッツクロー	1(2.0%)
コラーゲン	1(2.0%)
ビタミン B1	1(2.0%)
メリロート	1(2.0%)

肝障害の被害者総数 49 名
全被害者数 942 名

表 7 健康食品素材による有害事例で想定された原因
(詳細は表 1-a ならびに調査方法の項目を参照)

原因	人数
食物アレルギー	327(34.7%)
薬物アレルギー	309(32.8%)
過剰摂取	171(18.2%)
素材の成分	64(6.8%)
医薬品との相互作用	62(6.6%)
その他(記載なし等)	9(1.0%)

全被害者数 942 名

表 8-a 健康被害が生じた素材の利用目的(報告件数で分類)
(詳細は表 1-a ならびに調査方法の項目を参照)

目的	件数
食品として摂取	105(66.5%)
治療目的で利用	25(15.8%)
自己判断での治療目的(市販品利用)	14(8.9%)
職業で接触	10(6.3%)
化粧品として利用	2(1.3%)
その他	2(1.3%)

全報告数 158 件

表 8-b 健康被害が生じた素材の利用目的(被害者の人数で分類)
(詳細は表 1-a ならびに調査方法の項目を参照)

目的	人数
食品として摂取	536(56.9%)
治療目的で利用	350(37.2%)
自己判断での治療目的(市販品利用)	26(2.8%)
職業で接触	19(2.0%)
化粧品として利用	7(0.7%)
その他	4(0.4%)

全被害者数 942 名

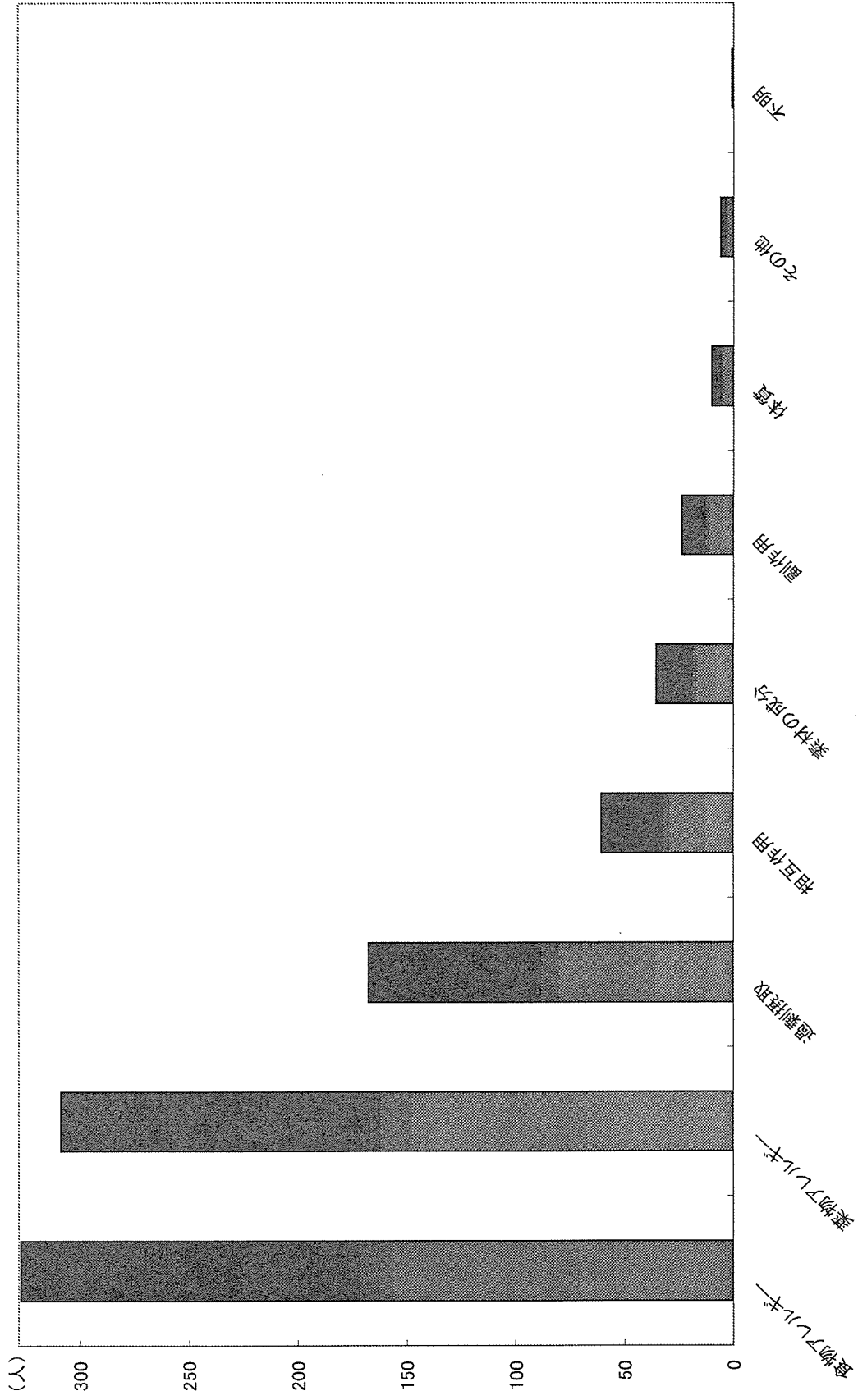


図5 健康食品素材による有害事例で想定された原因（被害者の人数で分類）
（詳細は表 I-a ならびに調査方法の項目を参照）

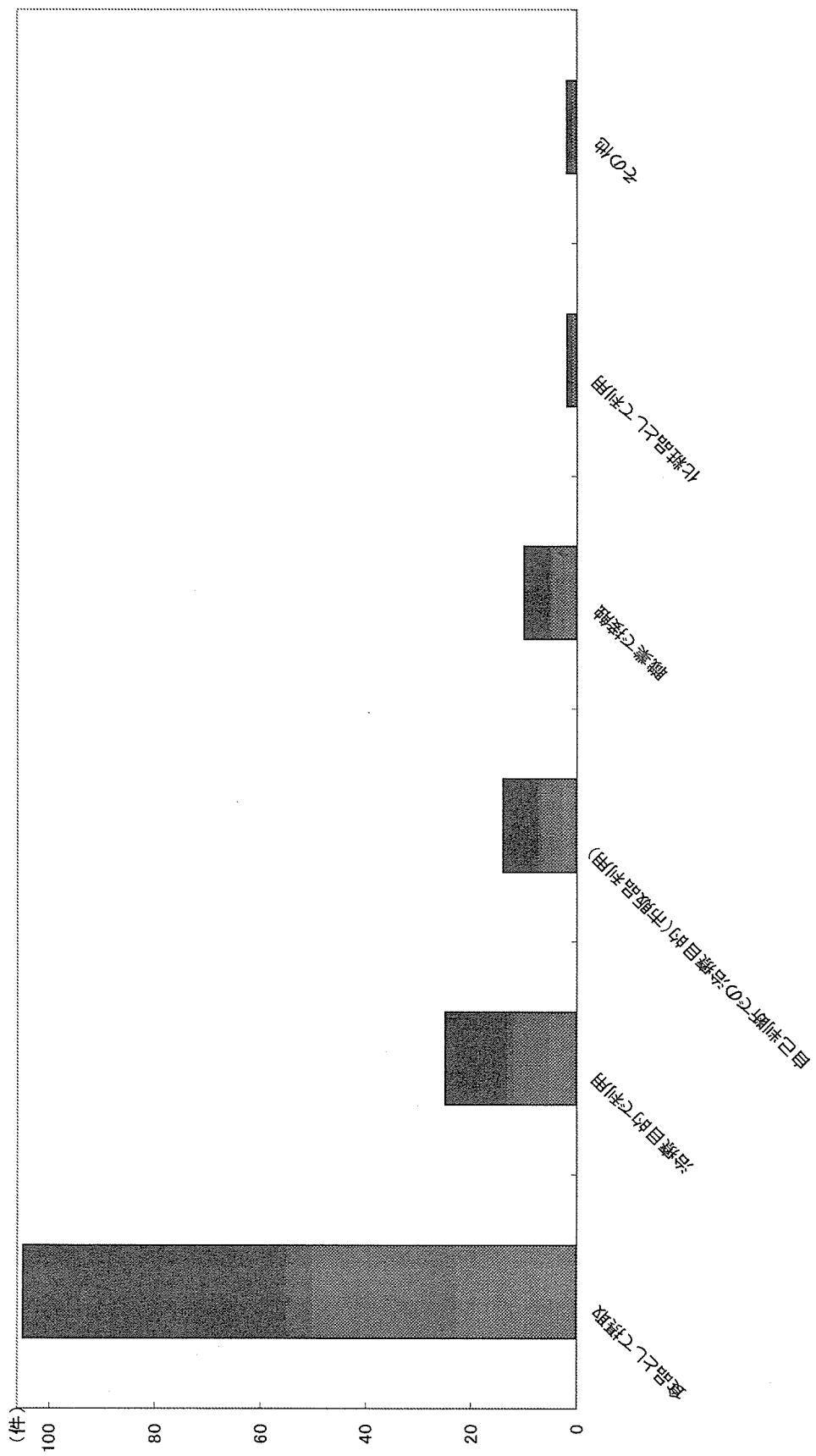


図 6-a 健康被害が生じた素材の利用目的(報告件数で分類)
 (詳細は表 1-a ならびに調査方法の項目を参照)

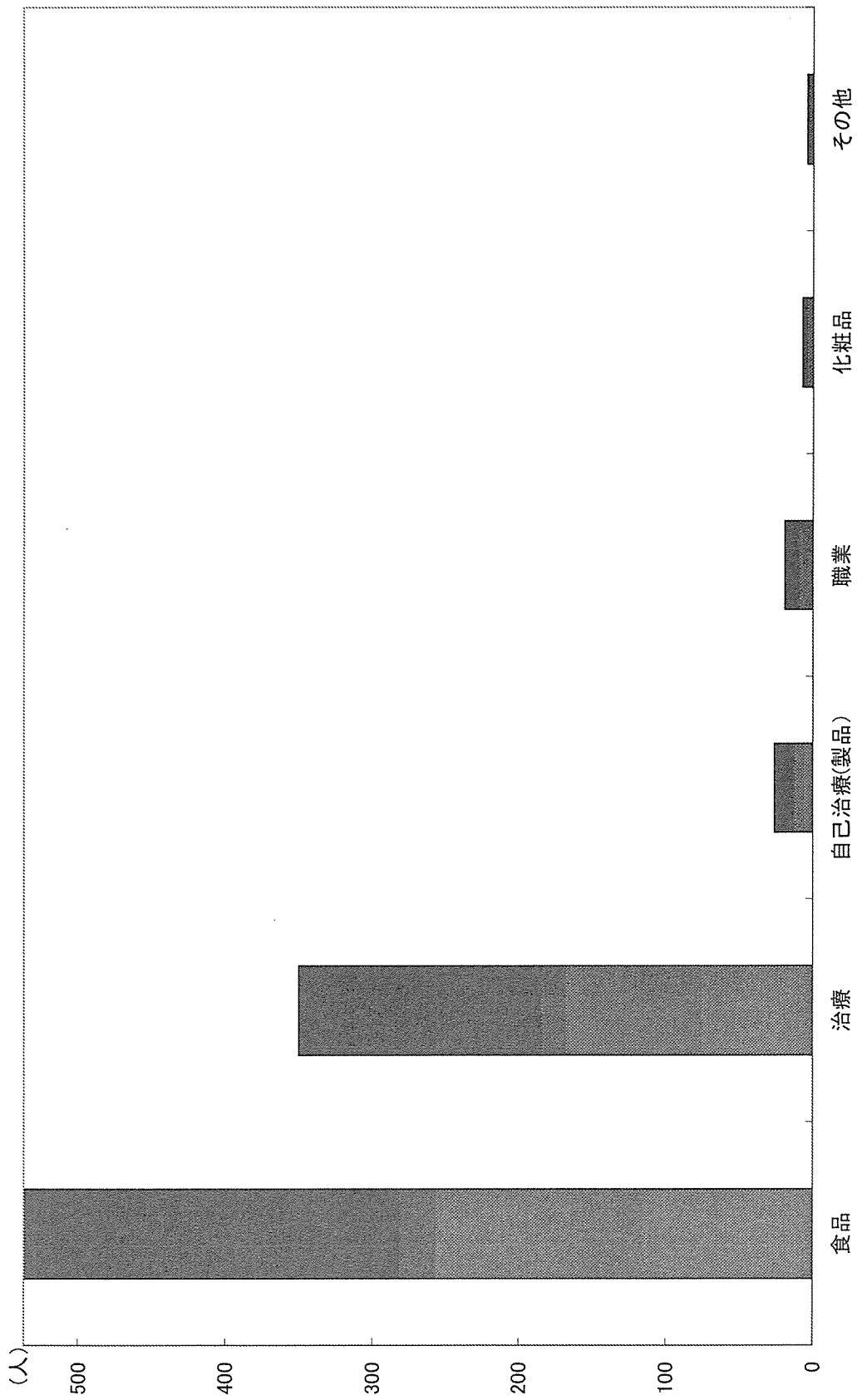


図 6-b 健康被害が生じた素材の利用目的(被害者の人数で分類)
 (詳細は表 1-a ならびに調査方法の項目を参照)

表9 「健康食品の安全性・有効性情報」に掲載している素材一覧

アガリクス(俗名)	アラキドン酸	ウメ
4-ヒドロキシプロリン	アラニン	エキナセア(エキナケア)
DHA(ドコサヘキサエン酸)	アラビアガム (アカシアガム、アカシア)	エゾウコギ
EPA(エイコサペンタエン酸)	アラビノース	エルダーフラワー、ヨーロッパ ンエルダー、エルダー、セイヨ ウニワトコ
N-アセチルグルコサミン	アルギニン	エルダーベリー (ヨーロッパンエルダー(セイヨ ウニワトコ)、アメリカンエルダ ー(アメリカニワトコ)などの果 実)
S-アデノシルメチオニン	アルファルファ(ウマゴヤシ/ ムラサキウマゴヤシ)	オウギ(キバナオウギ/ ナイモウオウギ)キバナオウギ
α-リノレン酸	アルブミン	オオアザミ(マリアアザミ、 オオヒレアザミ、ミルクシスル)
α-リポ酸(チオクト酸)	アロエ(俗名)	オオバコ(大葉子)、 シャゼンソウ
γ-アミノ酪酸(ギャバ)	アロエベラ(キュラソーアロエ)、 ケープアロエ (俗名:アロエ)	オオバコ属
γ-リノレン酸	アントシアニン	オオヒレアザミ
アクアインカー(俗名)	イソフラボン	オオミサンザシ(キレバサンザ シ、 チャイニーズホーソーン)
アサイヤシ	イソマルトオリゴ糖	オオムギ
アシタバ、明日葉 (俗名:ハチジョウソウ(八丈草))	イソロイシン	オオムギ(バクガ)
アスタキサンチン	イチョウ	オクタコサノール
アスパラギン	イヌリン	オタネニンジン
アスパラギン酸	イノシトール	オリーブ(オレイフ)
アセチル-L-カルニチン	イラクサ属(ウルチカソウ) イラクサ	ガーリック(俗名)
アマチャヅル	インゲン豆抽出物 (ファセオリン)	カキ<柿>
アミグダリン、レートリル、レトリル	ウイキョウ(フェネル)	カキ肉
アメリカンエルダーフラワー、 アメリカンエルダー、エルダー、 アメリカニワトコ	ウコン	ガジュツ

カゼインドデカペプチド	キトサン	クレアチン
カゼインホスホペプチド	ギムネマ(俗名)	クロム
カツオ(カツオ節)	ギムネマ・シルベスタ (俗名:ギムネマ)	クロレラ
かつお節オリゴペプチド	キャッツクロー	クワ
カテキン	ギョウジャニンニク	ケイヒ(桂皮)
カバ	グアガム	ケール (俗名:ハゴロモカンラン)
カミツレ(カモミール)	グアバ(別名:バンジロウ)	ゲッケイジュ (ゲッケイヨウ/ベイリーフ/ ローレル)
カラギーナン、カラゲニン	クエン酸	ゲルマニウム
ガラクトオリゴ糖	クコ(クコシ/クコヨウ)	ゲンチアナ
ガラナ	クズ	コウマ(俗名)
カリウム	クマザサ	コエンザイム Q10、コビキノ ン、 ビタミン Q
カルシウム	クランベリー (ツルコケモモ)	ゴマ
ガルシニア・カンボジア	グリシン	コムギ
カルニチン	クルクミン	コラーゲン
カロテン	グルコサミン	コリン
カワヒラタケ(俗名)	グルコマンナン	コンドロイチン硫酸
キシリトール	グルコン酸	サーディンペプチド
キシロオリゴ糖	グルタチオン	ザクロ (サンセキリュウ/セキリョウ)
キダチアロエ (俗名:アロエ、医者いらず)	グルタミン	サフラン
キチン	グルタミン酸	サメナンコツ

サンシチニンジン、三七人参	セイヨウオトギリソウ(セントジョーンズワート、ヒペクリムソウ)	タマネギ
ジアシルグリセロール	セイヨウカノコソウ(俗名:バレリアン)	タマリンド
シイタケ	セイヨウサンザシ	チェストツリー (イタリアニンジンボク/ セイヨウニンジンボク)
シジミ	セイヨウスモモ(俗名:プルーン)	チャ(茶)
シスチン	セイヨウタンポポ	チャーガ、カバノアナタケ、 樺孔茸、樺穴茸
システイン	セイヨウトチノキ(マロニエ)	チャパラル、 クレオソートブッシュ
シソ	セイヨウマツタケ(俗名)	チョウセンアザミ (アーティチョーク)
シタン	セージ(スパニッシュセージ)	チロシン
シャンピニオン (俗名:セイヨウマツタケ、ツクリタケ)	ゼラチン	ツクリタケ(俗名)
ショウガ(生姜、生薑)	セラミド (N-アシルスフィンゴシン)	ツバキ
シラカンバ	セリン	ツボクサ
シルクプロテイン	セレン	テアニン (グルタミン酸エチルアミド)
スイートクローバー(俗名)	センナ、アレキサンドリアセンナ、 チンネベリセンナ	デキストリン
スギナ(ツクシ/モンケイ)	ソウパルメット(俗名)	デヒドロエピアンドロステロン、 プラスチック
スクアレン	ソバ(キョウバク/ソバミツ)	テンチャ(甜茶)
スッポン	ダイズ	トウガラシ
ステビア	ダイダイ(ビターオレンジ)	トウチュウカソウ、冬虫夏草
スピルリナ	タイム(タチジャコウソウ)	トチュウ、杜仲
セイヨウエビラハギ(俗名:メリロート、 スイートクローバー)	タウリン (別名 2-アミノエタンスルホン酸)	トリプトファン
セイヨウオオバコ、オニオオバコ、 トウオオバコ、プランテーン	タヒボ (タバグイア・アベラネダエ)	トレオニン(スレオニン)

トレハロース	バレリアン(俗名)	ヒドロキシリジン (別名:ヒドロキシリジン)
ナイアシン、ニコチン酸および ニコチンアミド	バンジロウ	ヒバマタ
ナットウ(ナットウ菌)	パントテン酸	ビフィズス菌
ナトリウム	ヒアルロン酸	ヒメマツタケ(俗名:カワリハ ラタケ、アガリクス)
ニゲロオリゴ糖	ビール酵母	ヒュウガトウキ
ニンジン	ビオチン	ビルベリー
ニンニク(俗名:セイヨウニンニク、 ガーリック)	ピクノジェノール(俗名)	ビワ(枇杷)
ノギリヤシ(俗名:ソウパルメット)	ヒスチジン	フィーバービュー (ナツシロギク)
ノニ(ヤエヤマアオキ)	ビターオレンジ	フェニルアラニン
バーベナ、バーベイン、クマツヅラ、 バベンソウ(馬鞭草)	ビタミン A (レチノール)	プエラリア・ミリフィカ、 ガウクルア
パウ・ダルコ(俗名:アクアインカー、 イペ)、タヒボ	ビタミン B1 (チアミン)	フキタンポポ(カントウヨウ)
ハゴロモカンラン(俗名)	ビタミン B12 (シアノコバラミン)	フコイダン
ハス(レンカ/レンコン/レンジツ/ レンニク/レンヨウ)	ビタミン B2 (リボフラビン)	フッ素
パセリ(パセリ油)	ビタミン B6 (ピリドキシン)	ブドウ
バターバー、西洋フキ	ビタミン C (アスコルビン酸)	ブナハリタケ
ハタケシメジ	ビタミン D (エルゴカルシフェロール、 コレカルシフェロール)	フラクトオリゴ糖
ハトムギ(ヨクイニン/ヨクベイ)	ビタミン E (トコフェロール)	プラセンタ、胎盤
バナジウム	ビタミン K	プラチナナノコロイド、 白金ナノコロイド
バナバ(オオバナサルスベリ)	ビタミン P(ヘスペリジン、シトリン、 ケルセチンなどのフラボノイド)	ブラックコホシユ
バリシ	ビタミン Q	ブラックサイリウム、サイリウ ム、 プランタゴ・プシリウム

フラバンジェノール(俗名)	マンガン	ラクトリペプチド
ブルーベリー	マンネンタケ	ラクトフェリン
プルーン(俗名)	ミルクシスル	ラフマ、羅布麻(俗名:コウマ)
プロピオン酸菌発酵物	ミレット、キビ	ラベンダー
プロポリス	メグスリノキ	リコピン
プロリン	メシマコブ	リシン (リジン)
ブロードサイリウム、サイリウム、 プランタゴ・オバタ	メチオニン	リノール酸
ベタイン(グリシンベタイン、または トリメチルグリシン)	メチルスルフォニルメタン (メチルサリフォニルメタン)	リン
ベニコウジ	メマツヨイグサ(オオマツヨイグサ/ マツヨイグサ)	リン脂質結合大豆ペプチド
ベニバナ(コウカ/スエツムハナ/ クレノアイ)	メラトニン、松果体ホルモン	ルイボス
ヘラオオバコ、 イギリスオオバコ	メリッサ(コウスイハッカ/ セイヨウヤマハッカ/レモンバーム)	ルチン
ホスファチジルセリン	メリロート(俗名)	ルテイン
ポリグルタミン酸	モリブデン	レイシ、霊芝、マンネンタケ
ボルド	モロヘイヤ(タイワンツナン)	レシチン
マイタケ	ヤーコン、アンデスポテト	レドクローバー、ムラサキ ツメクサ、アカツメクサ
マカ	ヤマブシダケ	ロイシン
マグネシウム	ユッカ(キミガヨラン/センジュラン)	ローズヒップ
マコモ (ハナガツミ)	ユビキノ	ローズマリー(マンネンロウ)
マテ	ヨウ素、ヨード	ローヤルゼリー
マリアアザミ	ヨモギ(カズザキヨモギ/モチグサ、 マグワート/オウシュウヨモギ)	亜鉛

塩素	豆鼓エキス
果糖、フルクトース	銅
海藻	難消化性でんぷん、 レジスタントスターチ
核酸(DNA、RNA)	乳塩基性タンパク
環状重合乳酸	乳果オリゴ糖 (ラクトスクロール)
還元麦芽糖、マルチトール	乳酸菌、ビフィズス菌など
共役リノール酸	乳清
珪素	乳糖、ラクトース
高麗人参	葉酸
黒酢	卵黄油
酒石酸	硫黄
松樹皮抽出物 (俗名:ピクノジェノール、 フラバンジェノール)	
植物ステロール	
食物繊維	
雪茶、ゆきちゃ、せっちゃ	
大豆オリゴ糖	
大豆サポニン	
中鎖脂肪酸	
朝鮮ニンジン (オタネニンジン、高麗人参)	
鉄	

表 10 「健康食品の安全性・有効性情報」データベースへの被害事例記載例

<DHA>

・DHA 含有製品摂取との因果関係が疑われる健康被害が報告されている。

- ① アトピー性皮膚炎の既往歴のある 27 歳女性と 25 歳男性が DHA・EPA 含有栄養剤使用後に滲出性紅斑が出現し、使用を中止すると症状が改善した(2001122153)。
- ② 家族性大腸ポリポーシス患者 3 名（結腸亜全摘した 31 歳女性、半結腸切除術を受けた 58 歳女性、スリンダク摂取により多数の小腸潰瘍が発症したために結腸切除術を受けた 59 歳男性）に DHA 2.2g/日、EPA 0.6g/日を 1-2 年間投与したところ、それぞれ腺腫の粘膜の腺がん、子宮粘膜がん、肺がんを発症した(1999125863)。

<EPA>

・EPA 含有製品摂取との因果関係が疑われる健康被害が報告されている。

- ① アトピー性皮膚炎の既往歴のある 27 歳女性と 25 歳男性が DHA・EPA 含有栄養剤使用後に滲出性紅斑が出現し、使用中により症状が改善した(2001122153)。
- ② 家族性大腸ポリポーシス患者 3 名（結腸亜全摘した 31 歳女性、半結腸切除術を受けた 58 歳女性、スリンダク摂取により多数の小腸潰瘍が発症したために結腸切除術を受けた 59 歳男性）に DHA 2.2 g/日、EPA 0.6 g/日を 1-2 年間投与したところ、それぞれ腺腫の粘膜の腺がん、子宮粘膜がん、肺がんを発症した(1999125863)。

<アマチャヅル>

・市販のアマチャヅルを含むいわゆる健康食品から変異原性が確認されたという報告がある(1988074137)。ただし、該当するアマチャヅル製品の成分含量についての詳細は不明である。

<アロエベラ>

・アロエ含有製品との因果関係が疑われる接触皮膚炎が報告されている。ただし、アロエの種類に記載がなく、接触性皮膚炎の報告が多いキダチアロエの可能性も考えられる。

- ① アトピー性皮膚炎の 20 歳男性が大衆薬のアロエエキス配合薬用スキンクリーム（アロエの種類は不明）を塗布後、皮疹が悪化した(2004172350)。
- ② 女性 5 名（21-61 歳）が、クリーム、ハンドクリーム、クレンジング、サンタンローション、ボディソープなどのアロエ配合化粧品（アロエの種類は不明）による接触性皮膚炎と診断された(2000277467)。

<イチョウ>

・銀杏中毒は銀杏に含まれる 4-O-メチルピリドキシンがビタミン B6 の構造と類似しており、脳内の GABA 生成過程でビタミン B6 の補酵素としての作用を競合的に阻害し、けいれんが誘発されるという報告がある(2003225671)。

・イチョウ摂取との因果関係が疑われる健康被害が報告されている。

- ① 1 歳 5 ヶ月女児で嘔吐やけいれん、意識障害を呈した銀杏中毒が報告されている。小児の銀杏の大量摂取に注意するよう、保護者に情報提供する必要がある(2001054559)。
- ② 69 歳女性、62 歳女性、68 歳男性が銀杏拾いや果実の皮むきをした後 1-4 日後に痒みを伴う皮疹を生じたという報告がある(2004184832)。

<ウコン>

・ウコン摂取との因果関係が疑われる健康被害が報告されている。

- ① 薬剤性肝障害 22 例のうちウコンによるものが 11 例である（2004263248）。これらの